

鳴海ヶ丘新聞

第1号

2016年7月



子どもたちの虫の

関わりを紹介します。

6月25日「栄光まつり」を開催しました。今回のテーマは「親子de栄光ワールド」です。親子で素晴らしい感動体験ができるよう企画しました。

若草会主催のバザー、模擬店や輪投げ、絵合わせなどのゲームコーナー。模擬店では、お母さんと一緒に子どもたちが、お店番。子どもたちは、買いに来たお客さんに商品を渡していました。本物のお店でのお店屋さんごっこ。親子で一緒に働いている様子は、微笑ましかったです。



栄光まつり 開催

第一ホールでは、『水野彰 ポップス・カルテット』のコンサートが三回開かれました。大きな古時計、線路は続くよどこまでも、ミッキーマウスマーチなど、子どもたちが、知っている曲が多く、手拍子したり、からだを動かしたり、楽しみました。子どもたちに楽器の名前を聞いてみると「ラッパ!」と、元気よく答えが返ってきました。ラッパの正体は、トランペット、

トロンボーン、バリトンでした。ドラムスとピアノも交えた素敵な演奏に笑顔がこぼれました。

黄4のお部屋では、シユークラフトビュア主催の鈴木紀恵先生をお招きして、アイシングシュガーの体験が行われました。アイシングシュガーは、砂糖、乾燥卵白、水、安全な着色料を使い作ります。先生が用意したアイシングシュガーを使って角砂糖にお花を描きました。細かい作業にとっても集中して、素敵な作品が出来上がりました。



その他に、お抹茶の体験、シャボン玉、紙飛行機づくり、割りばし鉄砲など、一日、親子で楽しみました。最後には、メロン、色鉛筆、ボールなどが当たる抽選会が行われ、大盛り上がりで栄光まつりは終了しました。



テントウムシ



入園したばかりの四、五月。黄5組の靴箱周辺には、小さな黒い虫がいっぱい歩いていました。その見た目の怖さに子どもたちも最初は、驚いたり嫌がっていましたが、それがテントウムシの幼虫だということを知ると興味を持ち始めました。毎朝登園すると必ず出迎えてくれる幼虫たちに愛着を持ち、日に日に成長し、さなぎに。そして、テントウムシになった時はクラスみんなで喜び合うことができました。(早川 真由美)



カタツムリ



赤3組で飼育しているカタツムリさん。クラスの子が初めにみつけて持って来たのがきっかけで、クラスの仲間になりました。砂や水を入れてカタツムリの家を作り、週に一度子どもたちと一緒にうちの掃除もしました。

雨が降らず暑い日が続くと、カタツムリも殻の中に入り「死んじゃったかな?」と、みんな不安そうにしていました。ジュースのコップに水を入れていつでもお水が飲めて、苦しめないよう子どもたちと工夫をして楽しく育てています。(長野 由依)



おそうじ中!

かぶとむし



青2組ではかぶとむしの幼虫を飼育してきました。幼虫は、なるなる畑の土をよく食べ、うんちも沢山します。朝のコーナーあそびでは、子どもたちは「きれいにしなきゃね!」と、こまめにうんちを取り、お掃除してくれました。土が足りなくなると、竹やぶへ行き、竹の根がたくさん生える中、一生懸命土を集めて、ケースに入れていました。

七月になり、無事成虫で出てきて子どもたちは大喜びでした。「かわいいわね!」と、近くで見たり触ったりして、成長を喜び合うことができました。(白井 佳奈子)



『飼育つ』



私の小学生の頃「シーモンキー」という数ミリの変わった生き物がはやっていました。袋の粉(卵?)を水槽に入れると、数日で顔がサルのように体にかくさんのヒダがついたかわいい赤ちゃんが生まれます。飼っていくと数センチに成長し、その数は無数に増えていきます。「シーモンキーダンス」という泳ぎは、水の中を縦横無尽にしなやかに舞い、夏休みは宿題を忘れて夢中で見ていました。

幼児期の飼育は、自然の生き物が生まれたら、脱皮をしたり、交尾やさなぎと変態し、ワクワク、ドキドキの感動体験です。生き物の木のぼりやウンチの色、食べ物やくらしを見て、なぜだろう、ふしぎだなあと興味関心をもち、調べたり、考える科学の心も育ちます。そしてお世話をして、育てた先に、死んだり、新しいのちに出会い、生き物を通してのちの大切さや愛護の心を育てます。自然と同化(同じ気持ち、そのものに成れる)できる幼児期は、虫(あそぶ)ではなく、虫(あそべ)ます。夏休みの飼育、そして栽培を親子で楽しみ、「シーモンキー」のようにいつまでも心に残る思い出を作りましょう。

園長 岡田勝彦